

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4070501467
法人名	医療法人 社団桜会
事業所名	グループホームさくら
所在地 (電話番号)	福岡県北九州市小倉南区朽網西1丁目6番6号 (電話) 093 - 475 - 0063

評価機関名	株式会社アーバン・マトリックス		
所在地	福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成20年9月26日	評価確定日	平成20年11月25日

【情報提供票より】(平成20年8月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年4月4日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	19 人	常勤	14人, 非常勤 5人, 常勤換算 4.7人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り 8階建ての3~4階部分
------	---------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000円	その他の経費(月額)	(水道光熱費)10,000円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	400 円	昼食	600 円
	夕食	550 円	おやつ	円
	または1日当たり 1,550円			

(4) 利用者の概要(8月1日現在)

利用者人数	22 名	男性	6 名	女性	16 名
要介護1	7 名	要介護2		3 名	
要介護3	9 名	要介護4		1 名	
要介護5	2 名	要支援2		0 名	
年齢	平均 82 歳	最低	65 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	北九州総合病院 / 九州労災病院 / 大家歯科医院
---------	---------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームさくらの運営母体は医療法人社団桜会である。はるか新北九州空港を望む、高齢者総合施設の白い明るい建物の3~4階に3ユニットのグループホームさくらが運営されている。その他の階には、ケアハウス・リハビリテーションフロア・高齢者ケアの多彩なサービス機能が併設されており、専門職のマンパワーがバックにあり、安心感が高いグループホームである。エレベーターホールからグループホームまでのアプローチは、季節感のある親しみやすい布製の飾り物や郵便ポストが置いてあり、家庭的な雰囲気づくりの工夫がある。グループホームは、観葉植物が多く、畳のコーナーや炬炬燵が目につき、なつかしい雰囲気に包まれている。居室の入口には、それぞれ好みの暖簾が掛けられ、入居者一人ひとりが穏やかで安心してその人らしい暮らしができるように職員全員で支援している。今後は地域をはじめ、地域のグループホームとの連携も積極的にすすめられ、更なる連携が期待できるグループホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	外部からの評価を受ける事で自分たちでは気づけなかったことの改善を行なうことができています。アセスメントシートを新規に作成し、全員で入居者の思いや希望・意向の把握に努め計画に反映できるように取り組んでいる。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	外部評価を受けるに当たり、その意義を真摯に受けとめ、エネルギーと熱意をもって全職員で自己評価に取り組んでいる。入居者を取り巻く法令も年々微調整があり、文言の解釈も変化している。グループホームの役割など周知徹底の機会としてとらえ取り組んでいる。
重点項目	運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	家族・地域包括支援センター・校区社会福祉協議会・民生委員・職員の参加により2ヶ月に1回開催している。会議では、取り組んだ事柄や行事の報告をしている。多方面からの意見をサービスの質の向上を図るために検討し取り組んでいる。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	苦情箱の設置や家族との会話の中で意見が気軽に言えるような雰囲気づくりに努めている。家族からの要望・苦情には速やかに対応し改善するよう話し合っている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	施設内での盆踊りに地域の方を招いたり、地域の祭りの山車に立ち寄っていただいたり、地元の方々から材料をいただき、一緒に入居者と祭りのちまきを作るなど、地域との積極的な交流を行っている。近隣の児童・生徒のボランティアや施設見学を受け入れている。今後は、民生委員や地域の方に行事や企画などを教えていただき、地域活動にもっと参加していきたいと考えている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	個人が尊厳を保ちながら、その人らしく人生を全うすることができるように、理念は「尊厳と可能性を求めて」を基本に地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくための理念をつくりあげている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員全員が目につくようにホール内に理念を掲げている。また、会議などで理念について話し合い、理念に基づいたケアの実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	施設内での盆踊りに地域の方を招いたり、地域のお祭りの山車に立ち寄っていただいたり、地元の方々から材料をいただき、一緒に入居者と祭りのちまきを作るなど、地域との積極的な交流を図っている。近隣の児童・生徒のボランティアや施設見学を受け入れている。今後は更に民生委員や地域の方に行事や企画などを教えていただき地域活動にもっと参加していきたいと考えている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価を受けるに当たり、その意義を真摯に受けとめ、エネルギーと熱意をもって全職員で自己評価に取り組んでいる。入居者を取り巻く法令も年々微調整があり、文言の解釈も変化している。グループホームの役割など周知徹底の機会としてとらえ取り組んでいる。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族・地域包括支援センター・校区社会福祉協議会・民生委員・職員の参加により2ヶ月に1回開催している。会議では、取り組んだ事柄や行事の報告をしている。多方面からの意見をサービスの質の向上を図るために検討し取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政が開催する定期会議に管理者やケアマネジャーなどが参加し意見交換を行い、より良いサービスが提供できるように取り組んでいる。家族介護教室などの市の事業を積極的に受託している。地域包括支援センターとの連携によりグループホームの集まりや研修を計画している。		
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人には、それらを活用できるよう支援している。	認知症の入居者の権利はどのような制度で守られているかを知るために研修には機会ある毎に参加している。実際、当ホームでも制度の利用者がいる。家族へも制度を知ってもらえるようにパンフレットを準備し対応できるようにしている。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	それぞれのユニットで行事のスナップ写真や入居者が作られた折々の俳句を掲載した新聞を家族に送付している。家族の面会時には近況を報告し、異常・事故の際には即刻連絡・報告している。全家族へ運営推進会議の参加を呼びかけ、意見や意向を言っていたけりように取り組んでいる。		
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情箱の設置や家族との会話の中で意見が気軽に言えるような雰囲気づくりに努めている。家族からの要望・苦情には速やかに対応し改善している。		
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	入居者に配慮し職員の異動なるべく必要最小限にするようにしている。異動がある場合は入居者との相性も考慮し、引継ぎの期間を長く取るようにしている。家族には、異動の際には毎月の発行の新聞に職員を紹介し、家族にも安心してもらえるように取り組んでいる。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。	年齢・性別にかかわらず、やる気のある職員を採用するようにしている。職員の個々の能力を発揮できるように、アイデアや意見を大切に受けとめ尊重し、日々のケアやサービスに活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
12	20	人権教育・啓発活動	「個人の尊厳と可能性を求めて」という基本的な考えのもと、職員の採用にあたって入居者の人権の尊重の重要性を話している。内外の研修には積極的に参加し、伝達研修を行い周知徹底に努めている。		
		法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。			
13	21	職員を育てる取り組み	定期的に法人内の勉強会や研修を計画し実施している。職員の経験年数や意欲・能力に応じて資格取得やスキルアップのための研修にも参加できるよう配慮している。また、若い職員が行政主催の勉強会に参加し、同業他社と積極的に意見や情報交換などで触発され、若い職員の意欲を運営に活かしていけるよう取り組んでいる。		
		運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている			
14	22	同業者との交流を通じた向上	近隣のグループホームとの定期的な集まりに参加している。運営推進会議の進め方や年間行事について意見交換を行い交流を高めている。今後は地域包括支援センターの協力を得ながら組織化も検討している。その他、地域包括支援センターが開催するグループワークに参加し、サービスの質の向上に努めている。		
		運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている			
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
2. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用	まず入居者や家族の見学をすすめている。体験入居も約1ヶ月行い、本人・家族が納得して入居できるように支援している。入居の際には、これまで過ごされた生活環境を尊重し、その人らしい暮らしができるように工夫している。		
		本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気などに徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係	手作業や掃除・洗濯・お菓子づくり・配膳時に気をつけることや昔ながらのしきたり・決まりごと・季節の行事など多くのことを教えていただき、一方的に介護する立場にならないように人生の先輩としての関係に留意し支援している。		
		職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
17	35	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居時にフェースシートに本人や家族の希望を記載している。その後も、日々の言動から意向や好みを把握するようにしている。センター方式を活用し、日々の会話や表情など気づいたことはノートに記録するなど、希望や意向を把握するように努めている。今後は、更に入居者の生活歴などを掘り下げ、日々のケアに活かしていくことが期待される。</p>		<p>フェースシートに「生活歴」や「入居にいたる経緯」や「本人・家族の希望」が記載されている。今後は更に家族の協力を得るなど、入居者の全体像を把握するために生活歴や生育歴を掘り下げていくことを期待したい。</p>
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>本人の思い・家族・職員・医療チームで意見交換を行い、今、最も必要としているケアを提供できるように計画を立て、行動目標を毎日の「プラン実施表」に落としケアやサービスの提供を行っている。短期目標を到達可能な具体的な行動ができる内容に設定すると、次のモニタリングの評価が容易になると思われる。</p>		
19	39	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>3ヶ月毎に、また、状態変化が生じた場合に担当者会議を開催し介護計画の見直しを行い、状態に応じた介護計画を作成している。</p>		
3.多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>事業主体が医療法人である為、医師や看護師と連携し、家族の希望であるリハビリや早期の診療など支援している。医療法人でグループホームの位置する建物には、多彩な高齢者ケア事業が展開されており、多くの専門職のマンパワーにより、緊急時など早急な対応が可能であるため、家族にとっては大きな安心がある。</p>		
4.本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>本人や家族の希望により、かかりつけ医の受診を支援している。かかりつけ医とは情報交換など連携を図っている。週2回の往診も行われ、適切な医療を受けられるように支援している。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有	終末期のケアについては、重要事項説明書に対応が定められている。本人・家族の意向にそった措置・医療機関への移送・自宅・施設内の看取りなどを講じるようにしている。医療機関との24時間体制が確保されている。以前、職員は看取りの経験があり、達成感と共に職員間の協力がより強くなった経験を持ち、今後の体制も構築されている。		
		重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している			
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底	入居者一人ひとりを尊重した言葉かけや対応を常に意識している。記録などの個人情報についても取り扱いについて注意している。内部研修や会議を通して、全職員にプライバシーの保護教育を行っている。		
		一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない			
24	54	日々のその人らしい暮らし	基本的な1日の流れはあるが、それは大まかなもので個人のペースを基本に支援している。リハビリを利用されている方も曜日・時間を無理強いしないように取り組んでいる。また、手作業も個人の希望を尊重している。		
		職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している			
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援	ご飯を炊いたり、食事の盛り付け・配膳・片づけを入居者と職員が共に行っている。盛り付けの際には主人公は入居者で職員がさりげなく手伝っている。おやつ(お団子・餃子・祭りのちまきなど)は手づくりの調理を楽しんでいただけるように支援している。		
		食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片づけをしている			
26	59	入浴を楽しむことができる支援	入浴は毎日を心がけ、時間帯・体調を配慮し、希望に合わせて入浴できるように支援している。時には友人同士で入浴されるなど気持ちよく、ゆったり入浴できるように支援している。		
		曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	アセスメントから入居者の生け花・習字など興味のあることを引き出している。洗濯物をたたんでいただく方や掃除・ゴミ出しなど役割があり、入居者一人ひとりの能力が発揮できるように取り組んでいる。入居者の中には長老役がおられ、生き生きとその役割を果たしておられた。		
		張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている			
28	63	日常的な外出支援	入居者の希望にそって散歩・スーパーへの買い物など、体調に注意して外出ができるように支援している。		
		事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している			
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践	1階のホールでは、常に職員が見守っているため、鍵はかけていない。また、徘徊がある入居者については、常時、居場所を確認をしたり、外に行かれる時は同行して、さりげなく帰られるように働きかけている。		
		運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる			
30	73	災害対策	避難訓練は年2回定期的に行っている。マニュアルが作成され研修も行っている。職員も救命講習会を受講し「まちかど救命士」の認定も受けている。現在は、地域との連携も高まり、良好な関係を築いている。今後は、避難訓練に関して運営推進会議で避難訓練の実施状況を報告するなど、徐々に地域の理解・協力を育むことが望まれる。		
		火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている			
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援	同法人の管理栄養士による献立のもと、バランスの取れた食事内容となっている。食事量や水分量を記録し、必要量が摂取できない方には、本人の嗜好に合わせたり医師や家族に相談している。個人の摂取状態に合わせて、きざみ食など工夫をしている。看護師との連携で体調や栄養状態の把握も必要である。		
		食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり	共有空間には眺望がよく、自然光がたくさん採れる大きなガラス窓がある。季節の生花が活けてあり、入居者と職員が丹精込めたとと思われる手作りの布の飾り物などより季節感を感じることができる。畳コーナーの掘炬燵やさり気なく置かれている置物が昔なつかしく、ゆったりとした居場所となっている。		
		共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている			
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮	本人のなじみの家具や道具を自由に持ってきていただいている。お位牌を置かれたり、思い出の写真や外出で買われた装飾品や人形などがそれぞれの居室に飾られ、個性的な居室になっている。室内のレイアウトも本人が居心地よく過ごすことができるようにまた、動きやすいように工夫されている。		
		居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている			